

留学生のお母さん 「大久保和子さん」 追悼

30年以上の長きにわたり、常盤キャンパスで学ぶ留学生へ物心両面で支援を続けてこられ、留学生から「日本のお母さん」と呼ばれて慕われていた大久保和子さんが、長い闘病の末、平成30年12月29日に逝去されました。大久保さんの活動に賛同された宇部市民の方々とともに“ふれあいボランティア”として留学生のために活動され、常盤工業会ならびに宇部留学生交流会の諸活動に対しても大変ご尽力いただきました。ここに、深い感謝と哀悼の意を表します。

一般社団法人常盤工業会・宇部留学生交流会

追悼文 — お母さんと話したいこと —

博士後期課程システム設計工学専攻H28年修了 陶 婷

お母さん、旅立たれてから、そろそろ五カ月が経ちます。そちらでは病の苦痛がないよう、お母さんが毎日いつもの素敵な笑顔でいてくれていることを祈っています。

お母さん、覚えていますか？初めてお母さんと出会ったのは8年前の宇部留学生交流会の月例夕食懇談会（常盤工業会会館で開催）の時でした。お母さんは温かい笑顔で留学生の一人一人に「日本の生活には慣れましたか？困ったら、お母さんに言ってね…」と声をかけてくれました。日本語があまりわからなかった私は、実の母のようなその笑顔に癒されました。夕食懇談会の途中でお母さんは私のそばに座り、中国語で「大海呀、大海、就像妈妈一样…（大きい海よ、大きい海、ママのように…）」と歌い出しました。私はお母さんが中国語で歌を歌われたことに驚き、嬉しくて、お母さんと一緒に昔の中国の歌をたくさん歌いました。外国にいる孤独感がなくなり、日本にも家族がいると感じました。そ

の夜のことがとても楽しくて、一生忘れられません。それ以降、お母さんの小柄な姿、素敵な笑顔、温かい言葉に触れたくて、よく夕食懇談会に出向きました。また、お母さんもお父さん（大久保さんのご主人）も病気を患っている状態でも、留学生のために、日中友好のために何十年も貢献し続けていらっしやることをよく知っていました。お二人に出会い、自分も日中友好のために、なにかできることはないかと考えるようになりました。

お母さん、覚えていますか？日本に来て2年後、私が大学の寮ではなく民間のアパートで生活しなければならないことになったとき、家財道具が何もないことを聞きつけ、お母さんとお姉さん（大久保さんの娘さん）は車で家具や家電などいろいろ用意してくださいました。このようにお母さんとふれあいボランティアの皆さんは、留学生一人二人ではなく、1日や2日でもなく、いろいろな国のたくさんのお母さんたちに、何十年も支援を続け

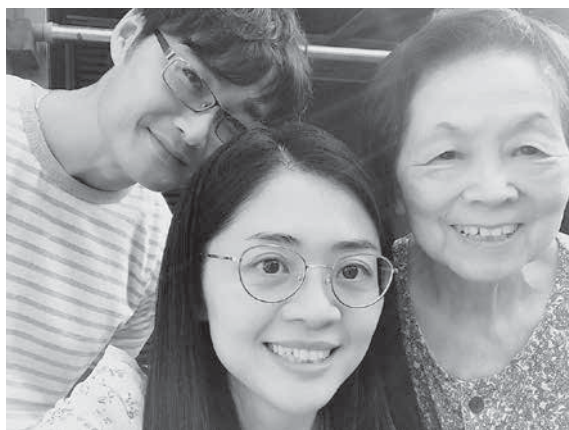
てられました。

お母さん、覚えていますか？去年（2018年）、新年のご挨拶のメッセージをお母さんに送った時、お母さんは「お父さん、お母さんも日々の生活に感謝し、一步ずつ、いや半歩でもいいから二人一緒に人生の道を歩きたいです。陶さんもまず健康、身体に気をつけてがんばってくださいね。もう一つがんばることは将来の伴侶、どこかに落ちてないかな!？」とメッセージを送っていただきました。その半年後、私は同じ山口大学の元留学生と結婚し、初めて主人を連れてお母さんとお父さんに会いに行きました。お母さんは私たちの結婚写真を見て、涙をぼろぼろこぼしながら「よかったね、よかったね」と喜んでくださいました。それが、お母さんと私たちの最後の交流になりました。

お母さん、知っていますか？2018年12月29日の23時52分、お母さんが亡くなったことをご遺族の方がお母さんのLINEから送ってくださいました。それを見た瞬間、私は愕然として、頭の中が真っ白になってしまいました。涙が止まらなくて、昔のメッセージを読み返し、お母さんとお父さんの写真を見ながら、たくさんのことを思い出しました。記憶の中のお母さんの温かくて素敵な笑顔は、どんなことがあっても変わらないです。それは、お母さんには心の広さと人間としての愛がたっぷりあるからです。お母さんが留学生を大きな愛で包んでくださったように、私たちも大きな愛を、この世の人々に伝えていきたいとします。

お母さん、日本に来てよかったです。お母さんたちと出会えてよかったです。この世で一番貴重なものを教えてくださいました。ありがとうございました。

・・・おもいで・・・



筆者（真ん中）大久保さん（右側）



平成27年12月元留学生との同窓会
(山口大学海外同窓会中国上海支部設立総会)
(撮影：山口大学)



平成28年度宇部留学生交流会送別会